

# 【会議録】

会議名	令和4年度第3回港区学校給食調理業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和4年10月31日（月）午前9時00分から午前12時00分まで
開催場所	港区役所7階教育委員会室
委員	出席者 10名 戸板女子短期大学食物栄養科 教授 西山委員長 大妻女子大学短期大学部家政科 富永委員 一般財団法人 東京顕微鏡院 学術顧問 安田委員 一般社団法人 全日本司厨士会 東京地方本部 常務理事・教育部長 飯塚委員 教育委員会事務局 学校教育部長 上村委員 教育委員会事務局 学校教育部 学務課長 佐々木委員 青山中学校 校長 中田委員 三田中学校 校長 上原委員 小中一貫教育校 白金の丘学園 校長 三浦委員 港区立小中学校 栄養士代表 芦澤委員 欠席者 0名
事務局	教育委員会事務局 学校教育部 学務課 保健給食係 係長 角田 教育委員会事務局 学校教育部 学務課 保健給食係 副係長 前口 教育委員会事務局 学校教育部 学務課 保健給食係 神山
会議次第	1 事前説明 2 学校ごとの審査 (1) 第二次選考プレゼンテーション・ヒアリング審査 (2) 第二次選考及び選考結果の最終決定
配付資料	《席上配付資料》 <共通資料> 資料1 今日の進行スケジュール <学校別資料> 資料2 第一次審査集計表 資料3 企画提案書等一式（ファイル） 資料4 共通質問回答 資料5 第二次審査基準及び審査票 《スクリーン投影資料》 資料6 最終結果集計表
会議の結果及び主要な発言	
(発言者)	
委員長	1 事前説明 (開会の挨拶)

	<p>(事務局より配付資料の確認)</p> <p>2 学校ごとの審査</p> <p>(1) 青山中学校</p> <p>ア 第二次選考プレゼンテーション・ヒアリング審査</p> <p>E社プレゼンテーション E社ヒアリング</p>
事務局	<p>それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。</p>
E社	<p>83.5%です。</p>
事務局	<p>共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。</p>
E社	<p>巡回担当者は、栄養士の資格を持っています。巡回担当者経験8年、業務責任者経験9年、学校給食現場の経験年数はゼロです。その他の給食調理現場では幼稚園現場で9年の経験があり、弊社勤務年数は11年です。 業務責任者は、栄養士と調理師の資格を持っています。業務責任者経験4年ですが、学校の業務責任者としては1年です。学校給食現場の経験年数は7年です。その他の給食調理現場経験年数は17年、弊社の勤務年数は20年です。</p>
事務局	<p>引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。</p>
A委員	<p>異物混入、アレルギー事故等件数が他社と比較して件数が多いです。受託している所が多い等理由はありますか。</p>
E社(巡回)	<p>全国の受託先からの報告件数を全て書いたため件数が非常に多くなりました。</p>
B委員	<p>アレルギー対策について、資料では受渡し時について詳細に記入がありますが、調理時の対策は記載がありませんでした。調理時のアレルギー対策について、現場責任者から教えてください。</p>
E社(責任者)	<p>調理時は、まずアレルギー食材をチェックし、アレルギーカードを用いて他のものと間違えないようにしています。アレルギー食材を扱う際は声掛けを行い、配膳台時も、アレルギー対応食があるクラスの運搬車に、あらかじめカードを配して、アレルギー対応食とカードと引き換えに置いています。</p>
C委員	<p>作業工程表はどのような点をポイントに作成しましたか。</p>
E社(責任者)	<p>喫食時間から逆算すること、アレルギー食材を取り分けるタイミング、作業の重複がないかを注意しています。また、下処理の区別とパート等他の者が見やすい</p>

	かを考えて作成しています。
D委員	急な欠員が朝に判明したら何分程度で応援体制ができますか。
E社（巡回）	弊社に応援体制の応援従事者がおります。少なくとも1時間前までに到着できる体制を取ります。
D委員	欠員が生じた場合、補充までに約1か月期間を要するとありますが、補充までの1か月の対応はどうしますか。
E社（巡回）	補充の配置が間に合わない場合は、応援者を配置して対応します。採用に際しての健康診断結果が出るまで1か月近くかかるため、1か月の記載をしています。早く配置できるように努力します。
D委員	4（2）異物混入の「袋の開封の際、ハサミの劣化により破片が発生。混入した」について、調理場でハサミはほぼ毎日使用するはずで、劣化が分からなかった理由を教えてください。
E社（責任者）	当該事故発生後から、月1回異物混入を防ぐために調理器具等に不備がないかを確認しています。現在は日々使用前、使用中、使用後も確認を徹底しており、当該事故発生以降に発生した事例はありません。
D委員	全国であることを加味しても異物混入件数が多いです。異物混入を防ぐ取り組みとして、拡大鏡を用いたチェックが効果をあげた事例があります。異物混入を防ぐ具体的な対策は何か検討していますか。
E社（責任者）	可能な限り全員の目で見ます。
E社	異物混入の事故件数は、全国の集計であることに加え、調理場の異物混入だけでなく、教室での虫の混入や子どもが配膳中に毛髪を混入した事例等も含めて報告しているため、件数が多くなっております。
D委員	子どもに提供するものです。十分な検討をお願いします。
E委員	給食調理には栄養士との協力が重要です。栄養士が新しいメニューを提案した際は、現場責任者はどのような対応をしますか。合わせて、これまでの経験で御社から栄養士に提案した事例を教えてください。また、港区は独自に様々な取り組みを行っていますが、港区ならではの取組みに対してどのように考えていますか。
E社（責任者）	メニューを見たときに限られた調理時間で実施可能か栄養士に確認しています。新しいメニューに関しては、作ったことがないものは作り方を調べて自宅で試作します。提案の事例としては、スコーンを作る際、バターは冷えている方が小麦

	と混ざりやすいため、給食食材は原則当日納品のところを、バターのみ前日納品に変更して冷やすことを提案し、採用されました。港区独自の商店街コラボメニューは楽しく、やりがいがあります。
E社（巡回）	地域の人たちと一緒に商店街を盛り上げていきたいという港区の取組みに共感しており、企画を成功させるため試食会などに向けて現場責任者も家で試作を行い、学校の許可を得たうえで、学校の調理室で実際に納品される食材を用いて試作をした事例もあります。当日ぶっつけ本番にならないように事前に確認してから当日を迎えます。
F委員	4（3）原因の「調理器具の使い回し、食物アレルギー対応食調理工程の認識不足」について教えてください。
E社（責任者）	除去食受渡し後に給食が足りない旨の連絡を受けたため、通常の給食を提供したところ、不足した給食が除去食であり、誤配してしまいました。そのため、調理器具の使い回しがあったというよりは、連絡や確認の不足に原因がありました。調理器具の使い回しは書き間違いです。
G委員	巡回担当者に質問です。巡回担当者は学校現場の経験がありませんが、学校現場では、どのようなところを注意されますか。また、これまでの経験は学校の調理現場でどのように活かせると考えますか。
E社（巡回）	これまでは保育園の現場で勤務しておりました。巡回担当者になり、学校を受持って3年目になります。保育園も学校も現場としては同じであるため、巡回時は、まず従業員が働きやすい状態かどうかを確認し、問題がないか聞き取ります。栄養士とのコミュニケーションを取り、衛生や調理に関してはマニュアル、仕様書の確認を行います。
H委員	チームワークは大切ですが、現場を回す上で大事にしていること、考え方を教えてください。
E社（責任者）	コミュニケーションを取るために、他愛のない会話と何かしてもらったときに対して感謝の言葉をかけています。
	E社ヒアリング終了 E社採点
	F社プレゼンテーション F社ヒアリング
事務局	それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。

F社	83.6%です。
事務局	共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。
F社	巡回担当者は、巡回担当者の経験年数は3年、業務責任者としての経験は18年、学校給食の経験を18年、その他給食調理現場は31年、会社での勤続年数は34年で、栄養士と調理師の資格を所持します。業務責任者は、管理栄養士と調理師の資格を持ち、責任者歴が5年、現場経験年数が14年、その他が17年、当社の勤続年数は6年です。
事務局	引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。
A委員	企画書に「食育授業へ積極的に協力させていただきます」とありますが、今までに食育授業へ積極的に協力した取り組みを教えてください。
F社	商店街コラボメニューを当社で試作を行い、他の学校に展開しました。
F社	各学校に設置されている給食委員会の委員会活動に栄養士とともに参画し、「給食ができるまでの留意点」を子供たちに知ってもらう取り組みを行っています。
A委員	コラボ給食と委員会活動は授業ではありませんが、授業への協力実績は何かありますか。
F社	栄養士が授業の中で給食の施設等を説明する際に、ビデオ撮影や書類の作成、写真撮影を協力した実績があります。
B委員	作業工程表が綺麗で分かりやすいです。実際の現場でも、同じ作成者が同じ品質で作成できますか。
F社（巡回）	今回提出したものは巡回担当者が作成しましたが、同じ品質のものを現場でも作成できます。担当として毎年作業工程表の書き方を指導しています。
C委員	業務責任者に質問です。調理技術の研修会等について、今年の特典メニューや新メニューの研修会の内容等について教えてください。
F社（責任者）	コロナ禍のため今年は新メニュー等の研修は行っていません。
F社	今年度は、手づくりパンの研修会を小規模で実施しました。その他はオンデマンドでスチームコンベクションオーブンの使い方研修等を行いました。
D委員	調理従事者の平均年齢が若い理由を教えてください。
F社	事業展開の都合で直近7、8年間は新入社員を多く採用しています。パートが確

	保できない場合、新入社員を配置しているため、平均年齢が下がっています。
D委員	アレルギー事故と異物混入が少ないです。企画提案書にある「未然防止活動」の成果ですか。
F社	アレルギー事故については、5、6年前までは誤配膳等が発生していましたが、事故をもとに各学校の作業手順書を見直し、専任のアレルギー指導員の設置を制度化する等の改善をした結果、現在誤配膳は全く発生していません。また、異物混入件数については、作業工程の中で異物混入等を発見した者に報告書を提出させ、報告者には奨励金を出し、報告書をもとに本社が全拠点に情報共有する「未然防止活動」の成果です。
D委員	現行の受託者は6名を配置している現場ですが、配置人数が5名になっています。問題ありませんか。
F社	社員3名、パート2名の配置なので問題ありません。新規で取り組む学校では、すべて1年目は運営の安定化を早期に図るため、社員比率を高めています。
E委員	給食調理には栄養士との協力が重要です。栄養士が新しいメニューを提案した際は、現場責任者はどのような対応をしますか。「きめ細やかで丁寧な給食作りを目指している」とありますが、栄養士が出した指示書に対し、現場責任者から栄養士に提案し、成功した事例を教えてください。
F社（責任者）	栄養士が出したい献立のイメージを聞き取り、連携を取りながらこれまでの経験と社の知識を基にアドバイスを行います。提案の具体的な事例としては、着色料を使わずに桜もちを作りたいという要望に対し、いちごを使って着色する提案をしました。また、赤飯を作る際、渋切りする方法について提案しました。
F委員	3（1）①「ヒヤリハット」について、どのような方法で報告周知を行っていますか。
F社	アレルギーについては、実際にヒヤリハットはほとんど発生していません。異物混入については、すべての現場に配したパソコンを通じて本社に報告が上がり、本社からのフィードバックを即座に全拠点に送付します。各現場責任者は共有された内容をそれぞれの現場に置き換えて注意喚起を行います。
F委員	本社からのフィードバックの内容を教えてください。
F社	写真と注意すべきこと、具体的事例をそのまま簡潔に書いて送付します
F委員	事例の集計・分析を行っていますか。
F社（巡回）	時期によりますが虫が一番多いです。初夏は増えるため注意喚起を行います。

F社	本社に報告されたものは分類しています。初夏は虫が多い、夏休みは機械の破損や異常が多い等のデータをデータに合わせて事前に注意喚起を行います。年間に200以上出るためデータを分析して活用するのは重要と考えます。
G委員	アレルギー対応食の指導員について、巡回指導の頻度を教えてください。
F社	巡回指導の担当者は3人います。それぞれ調理師、栄養士、管理栄養士の資格を所持している者です。巡回は年に1回必ず行います。新規の立ち上げは必ず同行して自治体、学校の状況を確認しながらアレルギーの手順書を必ず作成します。現場責任者と同様な形で学校用の手順書を作成します。
H委員	現場における連携の観点で注意点があれば、現場責任者から教えてください。
F社（責任者）	報連相を大事にし、風通しが良くチームワークの良い職場作りを目指して実践しています。挨拶によって、コミュニケーションをするように心がけています。
H委員	課題がある場合、どのように対応しますか。
F社（責任者）	面談を行います。  F社ヒアリング終了 F社採点  B社プレゼンテーション B社ヒアリング
事務局	それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。
B社	89%です。
事務局	共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。
B社	巡回担当者は巡回担当経験年数が5年、業務責任者としての経験は7年、学校給食自体の経営経験は16年、当社の勤務年数は13年です。業務責任者は業務責任者経験13年、学校給食経験20年、当社の勤務年数は20年です。
事務局	引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。
A委員	1ページ1（3）について、これまでの学校の食育活動の取組みを具体的に教えてください。

B社	親子料理教室です。調理師の仕事を児童に説明してほしいという依頼があり、教室で仕事内容を説明しました。漁業組合との連携で子どもの目の前で魚を捌くイベントに協力したことがあります。
B委員	作業工程表に担当者の記入がなく、動きの全体像が掴めません。具体的にどのメニューを誰が担当するか教えてください。
B社（責任者）	社員が2名、パートが4人です。まずはパート・社員共に野菜を切裁作業にかけて、魚の下味を行い、ご飯の点火を社員で行い、1名が魚を焼く、1名が切り干し大根の炒め煮を調理して、魚を焼いている間に他に味噌汁を作ります。社員2名の補助でパートが魚を並べて配缶に入って作業します。
B委員	実際に現場の担当区分はどのように指示しますか。
B社（責任者）	実際には、事前に円滑に進むように作業工程表を作成して、栄養士に確認を取ります。計画に無理がある場合は変更します。時間通りに衛生的な作業ができるように作成しています。
B委員	担当者名を記載しなかった理由を教えてください。
B社（責任者）	記入漏れです。
C委員	今年の調理実習の研修内容と今後の研修予定について教えてください。
B社	直近に行った調理実習では、出席者を幾つかのグループに分けてカレーとサラダとゼリーを作りました。調理工程と出来栄えの関係を分析し、一番出来栄えの評価が高かったグループは、調理工程のポイントを説明する調理実習を行いました。また、直近の実習は経験の浅い社員を対象にしていますが、業務責任者を対象とした実習も予定しております。
D委員	4ページ4（4）①のアレルギー事故の再発防止策について、（5）で「二重三重の管理体制を構築」と「調理従事者が食物アレルギーの十分な知識を持ち」と記載されていますが、私の業界（調理関係）では食物アレルギー専任の責任者を置き、他の者にはアレルギー対応食を一切触れさせず、責任者のみがチェックを行うのが一般的です。二重三重のチェックではなく専任の責任者を置く考えはありますか。また、責任者に十分なアレルギー知識がなければ事故を防止できませんが、その点はどのようにお考えですか。
B社	アレルギーは危険性を十分に認識することが第一と思います。研修ではアレルギーのメカニズムや事故発生時を理解した上で、当日の作業工程の中でアレルギー担当者の設定をしています。ただし、責任者だけがアレルギー食を担当するのではなく、責任者が急きょ欠員になった場合でも社員全員がアレルギー食を担当できるように、ローテーションで作業を回す等を行い、その上で当日の作業はダブ

	ルチェックを徹底的に行います。
F委員	定期的のアレルギーの教育研修を行っているとのことですが、研修の計画の中でどの段階でアレルギー研修を行っていますか。
B社	アレルギーは毎月実施する研修の中で行っています。毎月、様々な自治体から事故発生事例を収集し、ケーススタディとして随時研修の中に取り入れています。その上で夏期休暇等、パートも含めて参加できるような時期の研修では、アレルギーのメカニズム等を外部の講師を招いて講習しています。コロナ禍においては、講師を招くことができておりませんが、外部の講習にリモートで参加し、アレルギー研修を行っています。
E委員	給食調理には栄養士との協力が重要です。栄養士が新しいメニューを提案した際は、現場責任者はどのような対応をしますか。また、栄養士が出した指示書に対し、受注者から栄養士に提案し、成功した事例を教えてください。 加えて、繰り返しになりますが、作業工程表に担当者名がないことは、作業工程表として成り立っていません。ヒューマンエラーは必ず発生しますが、提出する前にエリアマネージャーと確認を行う等、現場と会社の連携は問題ないですか。
B社	作業工程表の件については、こちらの確認漏れであります。日々の作業工程表は担当者が把握をしていますが、提出物としての確認に対して十分ではなかったと思っています。色々な新しいメニューの取り組みについては、各現場で経験したことのないメニューは、可能な限り試作を行います。試作は、可能であれば現場の厨房で行い、試作の食材費は会社負担する旨を各現場に周知しており、必要に応じて試作などを行うこととなります。
E委員	受注者から栄養士に提案した事例についてはありますか。
B社（責任者）	新メニューの試作の際、これまでの経験を生かして、焼き方等調理方法を変更する等を提案することがありました。
G委員	業務責任者に質問です。これまで経験した事故で一番大きかったものと、その対応について説明をお願いします。
B社（責任者）	アレルギー事故等が起きたことはありません。異物混入が主です。金属片についても器具の使用前・使用中・使用後にチェックしているため、私個人としては起こしたことはありません。髪の毛と虫の異物混入はありました。
G委員	事故が発生した際は、どのような対応を行いましたか。
B社（責任者）	すぐに栄養士と学校長に報告を行い、指示を仰ぎ対応しました。
H委員	現場責任者に質問です。これまで仕事をして一番良かったことを教えてください。

B社（責任者）	<p>い。</p> <p>調理をして作ったものが空っぽで返ってくることはもちろん嬉しいですが、直接お言葉をいただく機会がないため、栄養士を通じて子どもたちからの感謝の言葉をいただくと、また頑張ろうという気持ちになります。</p> <p>B社ヒアリング終了 B社採点</p> <p>イ 第二次選考及び選考結果の最終決定 (事務局による集計結果の発表)</p>
委員長	<p>講評をお願いします。</p>
A委員	<p>B社は、作業工程表が組織的にチェックされていない点と、業務責任者が質問に対して答えになっていないところがあったため、任せるのはかなり心配です。E社かF社がよいと思います。</p> <p>E社はアレルギーの件数が多かったので、質問したところ正直に全国の件数で数えているとの回答がありました。対して、F社は令和3年度の異物混入について、「未然防止活動」でヒヤリハット報告が200件挙がっていると言いながら、教育委員会への報告は4件と記載しているため、作業中の異物混入を隠しているのかなと思いました。</p> <p>また、E社は現場責任者が新メニューにどう対応するかの質問に、自宅や調理室で試作するとの回答があり、非常に信頼がおけると感じました。</p> <p>F社の方は本部の方が中心に発言していて、巡回担当者の発言が少なかったことで、トップダウンが浸透していると感じました。一方、E社の場合は、まんべんなくそれぞれの立場の方が発言されていたので、社内コミュニケーションがとれているように感じました。</p> <p>E社の方が安心して給食を任せられると感じます。</p>
C委員	<p>B社について、作業工程表に担当者名の記載がなかったことは、アレルギー対応や担当者の力量、組織としての在り方にも及ぶ問題であると考え、作業の組立てに対する評価だけでなく、アレルギー対応、巡回担当者、業務責任者、組織管理にも低い評価を付けています。</p> <p>E社とF社に大きな差はありませんが、F社の方を高く評価しました。</p> <p>差がついた点としては、E社の巡回担当者が学校給食現場の経験が乏しいとのことで、評価を落としています。</p> <p>また、F社の作業工程表は出来が良かったです。提出された品質のものが毎日作成できるのであれば期待できます。</p>
事務局	<p>F社の作業工程表について言及がありましたので補足します。作業工程表は募集要項で実際に現場責任者として配置予定の者が書くよう指定しておりますが、F社は巡回担当者が書いたとの発言があり、募集要項の指定と異なることをご留意ください。</p>

C委員	募集要項の指定と異なるということでF社の評価は修正します。
F委員	衛生の観点を重視して採点しました。 F社は「未然防止活動」など、社としてアレルギー・異物混入対策の仕組みを整備している点が良いと思います。 E社はビニール片の混入や誤配など初歩的なミスによる事故があったこと、B社は対策の具体性に欠く点で評価を落としました。
D委員	C委員と同様の理由でB社は低く評価しました。 E社とF社は総合して同程度の評価になりました。 E社の業務責任者は特別なメニューに対し、試作して備える姿勢が良いです。F社は異物混入を率先して報告できる仕組み作りをしている点良かったと思います。
E委員	現場に携わる人を重視して評価しました。 E社はこちらの質問内容に対し巡回担当者、業務責任者が直接自分の言葉で回答し、内容にも満足できたので高く評価しました。 F社については、巡回担当者や現場責任者の職務に関する質問にも本部の方が答えることが多かったため、それぞれの担当者の評価でE社と差がつかしました。
G委員	巡回担当者、業務責任者の受け答えでE社を高く評価しました。また、作業工程表を巡回担当者が記載したとのことで、F社の評価を下げました。
H委員	F社の「未然防止活動」そのものは良いと思いますが、A委員と同じく、200件ヒヤリハットがあって教育委員会への報告件数が4件であることに疑問があります。アレルギー・異物混入は起こさないことが一番ですが、発生時した場合の適切な対応という観点で、きちんと報告しているE社の方を高く評価しています。
B委員	E社とF社の評価には大きな差がつかせませんでした。E社は業務責任者の受け答えが良く、F社はアレルギー対策を評価しました。
委員長	以上の発言を踏まえ、点数に修正はありますか。  (委員長による再集計結果の発表)
委員長	第二次審査の結果はE社が1位、F社が2位ですが、第一次審査と合計した総合点ではF社が1位、E社が2位となります。 みなさんの意見や高得点の項目などを改めて整理すると、F社は独自の事故報告勸奨制度を設ける等アレルギー事故・異物混入を防止するための体制が整備されている点が特に優れていると評価できます。また、一次審査において欠員発生時のバックアップ体制が高く評価されています。以上のことから青山中学校はF社を事業候補者として選定することとしますが、よろしいですか。

	(委員一同、異議なし)
	(1) 三田中学校 ア 第二次選考プレゼンテーション・ヒアリング審査
	B社プレゼンテーション B社ヒアリング
事務局	それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。
B社	89%です。
事務局	共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。
B社	巡回担当者は巡回担当経験年数が5年、業務責任者の経験は7年、学校給食自体の経営経験は16年、当社の勤務年数は13年です。業務責任者は業務責任者経験13年、学校給食経験19年、当社での勤続年数は12年です。
事務局	引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。
I委員	最近の調理実習はリモートではなく実際に行うことが多いですか。
B社	調理実習は夏に実施しました。年度内に実施する予定もあります。調理実習はリモートが難しいため実際に行っています。
I原委員	実際に実習を行い、予定通りに実施できましたか。
B社	調理実習は想定通りにできました。
I委員	パートの定着率が高いですが、定着率が良くなるために工夫していることはありますか。
B社	現場責任者による面談を学期毎に行います。現場のコミュニケーションが重要なため、巡回指導の担当者が必要と判断した方には担当者による面談も行います。
I委員	急な欠勤等があった場合、補充要員は電車で来ますか。計画運休が起こった際、補充が間に合わなかったことがあり、懸念しています。
B社	公共交通機関を使用することが前提ですが、非常時は社用車、本部スタッフによる車、自家用車を使いながら対応します。
B委員	作業工程表に担当者の記載がありません。全体像が掴めないため具体的にメニュー

	一の担当者を今教えてください。
B社（責任者）	朝の下処理関係は社員3名がそれぞれ分かります。玉子だけで三種類あるため、玉子だけを担当する人は個別で作成に当たり、除去食に触らないようにします。玉子の担当はあとでケーキの担当に合流します。残る社員の2名は、1人がご飯とスープを担当し、もう一人がサラダだけの担当になります。配缶は主にパートが行い、ご飯が2名とケーキが1名、スープは社員が配缶します。
B委員	除去食対応はアレルギー担当を一人決めるということですか。
B社（責任者）	前日に栄養士と相談して担当者を決めます。
B委員	担当者のところが未記入になった理由を教えてください。
B社（責任者）	私のミスで書き忘れしました。
C委員	巡回担当者に質問です。月2回以上巡回するとのことですが、巡回時にどんなところをポイントにして現場の方とコミュニケーションを取っているのか、心がけていること等を簡潔に教えてください。
B社（巡回）	巡回時に栄養士に現場の状況確認を行います。コミュニケーションは、責任者をはじめ社員、パートとも作業しながら声かけを行い、作業後も話し合いを持てるようにしています。
D委員	1ページ2（1）を業務責任者に質問です。ここには自校式や手づくり等の港区の特色について記載がありませんが、実際には冷凍食品等を使いますか。
B社（責任者）	ほとんど使用しませんが、使うこともあります。お菓子のペーストとか、潰したもののペースト等を解凍して具材の一つとして使うことがあります。
D委員	基本的に手作りですか。
B社（責任者）	はい。
F委員	4ページ4（4）①、「伝達していなかった」は他の作業の原因ではなく大元に原因があると思います。その件について分析しましたか。
B社（責任者）	現場全体でアレルギーの情報を共有する必要がパートも含めてありますが、その意識が作業担当者、社員を中心に、この事例については共有ができていなかったと考えます。朝礼、ミーティング等の際にパートも含め厨房全体でアレルギー情報を共有する意識が不足していました。
E委員	給食調理には栄養士との協力が重要です。栄養士とコミュニケーションを取るう

	<p>えで、心がけていることを教えてください。また現場では調理の作業的なこと、人間関係等の問題があると思います。基本は業務責任者が対応しますが、多忙な時はどのように解決しますか。</p>
B社（責任者）	<p>栄養士とのコミュニケーションは個人的には栄養士の思いを理解する気持ちが大切だと思います。自分が思ったことを隠さずに栄養士と話し合います。</p>
B社（巡回）	<p>現場の人間関係のトラブル、作業的な悩みは巡回の中で確認を行います。解決できない、先に進めない場合は中に入る回数の頻度を増やして、一緒に解決できたらと考えています。人間関係の問題は基本的に責任者に任せている部分がありますが、解決できない際は私も入って話し合いを行います。</p>
E委員	<p>調理現場で、調理技術の面でよく分からないことがある、失敗しないように準備をしたい等の質問は、すぐに答えることができる体制を取っていますか。</p>
B社（巡回）	<p>対応が必要な現場に関しては前日の Web ミーティングに私も参加して、現場の人たちがわからないことはそこで対応します。前日のうちにやりとりして準備体制を取ります。</p>
G委員	<p>業務責任者に質問です。異物混入とアレルギーの事故が定期的発生していますが、これまで一番大きかった事故の経験がありましたら内容と対応について教えてください。</p>
B社（責任者）	<p>異物混入は3件程で髪の毛の事故が起きました。個人的に大きな事故が起きたことはありません。</p>
G委員	<p>事故の際は具体的にどのような対応を行いましたか。</p>
B社（責任者）	<p>帽子を二重に身に着ける徹底と、粘着ローラーを使用した調理服からの異物除去を互いに確認し合いながら行います。</p>
G委員	<p>事故が発生した際は、まずどのように対応しますか。</p>
B社（責任者）	<p>すぐに栄養士に報告を行います。それから校長先生に報告して、会社に報告します。教室で異物確認を行い、謝罪対応をして今後は起こらないように説明します。</p>
H委員	<p>巡回担当者と業務責任者が解決できず、会社で解決しなければならなかった事例があったら、それに対してどのような対応を行ったか教えてください。</p>
B社（本部）	<p>巡回担当者が栄養士の話を伺い、解決に努めた結果、最終的には難しい結果となり、人事の交代を行う会社判断があったことは過去にあります。</p>

	<p>B社ヒアリング終了 B社採点</p> <p>D社プレゼンテーション D社ヒアリング</p>
事務局	<p>それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。</p>
D社	<p>78.1%です。</p>
事務局	<p>共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。</p>
D社	<p>巡回担当者は、学校給食の業務現場経験が20年、業務責任者の経験が7年、巡回担当の経験が5年になります。業務責任者は学校経験が21年、業務責任者の経験が20年です。</p>
事務局	<p>引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。</p>
I委員	<p>パート定着率を高めるために取り組まれていることはありますか。</p>
D社	<p>従事前の面接時の丁寧な説明です。ギャップがないようにしています。丁寧に時間を割いて学校給食について説明します。入社1ヶ月後のアンケートと面談を実施しています。事業所で年に数回の懇親会の費用の補助を行っていること、パートへ目標的な部分で資格取得時の受験料の補助、また希望に沿って社員登用を行っています。</p>
B委員	<p>作業工程表の今回のメニューに関して、非常にアレルギー対応が多いと感じます。アレルギー対応について作業工程表上で注意する点とアレルギーの担当者は、どのように意識して作るのか教えてください。</p>
D社（責任者）	<p>前日の栄養士との打ち合わせと記載事項の漏れがないようにホワイトボード等を注意して記入します。また朝礼で告知します。受け渡しは栄養士との話し合いのもとカードを作り、盛付の確認後に捺印を行い先生の判子をいただき、生徒にお渡しするときは担任の先生に確認して捺印をもらってから渡します。</p>
B委員	<p>作業工程表の抹茶ケーキの担当者が未記入です。誰が担当しますか。</p>
D社（巡回）	<p>記載ミスです。正確には2番、3番、A、B、D、Eです。</p>
B委員	<p>アレルギー担当者は1人ではなく、様々な方が関わるということですか。</p>
D社（巡回）	<p>はい。主任（業務責任者）の最終確認、及び声掛け、作り手側からの逐次報告な</p>

	どの対応をしております。
B委員	玉子が何ヶ所かありますが、携わる方はそれぞれですか。1人ですか。
D社（巡回）	基本的に同じ人間を配置します。汚染する人間を無駄に作らないようにして、作業工程表を組みます。
C委員	巡回担当者に質問です。月3回以上の巡回は頻度が高いと思いますが、どの時間帯に、どのような所に気を付けて巡回を行っていますか。また、個別面談はどのように行っていますか。
D社（巡回）	巡回は午前中に入っています。栄養士への挨拶もしくは従事者の面談を心がけて月に3回以上伺います。面談時のポイントは働きやすい環境であるか、普段の仕事の中で困っていることがないかどうかの確認を行い、主任（現場責任者）と共有して相談した上で全体感のバランスを取りながら巡回を心がけます。
D委員	朝に欠員が発生した際、バックアップ体制は何分で学校に到着しますか。
D社（巡回）	基本的に私に対応するため、常時主任（現場責任者）からの連絡後、遅くても30分から1時間以内に対応できるように心がけます。
D委員	あなたがいらない場合はどうしますか。
D社（巡回）	連絡のネットワークがあるため近隣の事業所、もしくは私の担当エリアから前日に主任（現場責任者）と連絡を取り合っているため、状態を把握した上で翌日に備え、私も含めて対応するため穴が空くことはありません。
D委員	調理技術の研修が年1回とありますが、1回で大丈夫ですか。調理技術は常に変化し、アルバイトにも研修しなくてはならないため、どのように考えますか。
D社（巡回）	既に社員会議等で調理科学を用いた説明を行っていますが、実践に即したものを会議で現せないため、伝えたいポイントを実際に共有する意味で年1回の社員会議、調理研修を行っています。私が巡回以外のところでも話をしたい部分を、実際に調理することで、感覚的で言葉に表せないことを伝えていく意味合いを多く含めたい研修を行っています。1回で全てが伝わるわけではありませんが、私の日々の巡回によって足りないところを補っている状況です。
D委員	技術的な研修はありますか。
D社（巡回）	主任（現場責任者）からのOJTという形で、日々の実力等の状況を判断した上で、一つ一つ理解度を確認したし、横につきながら指示をして動きます。年間を通してどこまでできるようになるかの目標設定も私と主任（現場責任者）含めて一緒に行っているため、途中経過も把握しています。

D委員	現場の方はアレルギーの責任者を決めていますか。
D社（責任者）	はい。
D委員	では、その人がすべて見ているということですね。
D社（責任者）	アレルギー責任者がチェックし、現場責任者の私が最終的に見ます。
F委員	異物混入が何件か発生していますが、内訳を教えてください。
D社（巡回）	内訳は基本的に虫と髪の毛の割合が多いです。ビニール片もあります。それらの混入対策として、一つ一つのルールを徹底しています。口頭だけでなく、例えばハサミを使用した袋の開封方法を目の前で見せて、同じ理解のもとで対策できるようにしております。
E委員	様々な栄養士とコミュニケーションを取り、関係性を作るためにどのような工夫をしていますか。また、巡回指導は、学校現場から調理や作業等で現場では対応しきれない困ったことが起きた際、すぐ質問して解決できるような連絡体制や知識の蓄積について教えてください。
D社（責任者）	栄養士とのコミュニケーションは必ずどんな些細なことでも連絡を取って、こちらからも調理方法の提案をしながら一緒に行います。
D社（巡回）	現場で翌日、その付近の週にある献立上の話であれば、私も同じメニューを把握しています。過去のデータとマニュアルもクラウドサービスで、すべてのデータを共有しているため、口頭だけではなく同じ画面を見てマニュアルを振り返りつつ、翌日の対応もしくは調理指示を確認しています。また前日の打ち合わせに私も入り、齟齬がないように同じ理解となっているかを大切にしながら当日に挑み、大きな混乱がないように最大限努力しています。
G委員	業務責任者に質問です。去年から HACCP を本格的に導入した事業者が多いと思いますが、HACCP を入れる前後で現場ではどのように管理方法が変わりましたか。
D社（責任者）	HACCP の講習を受けているため、それに対する立案と確認を進めながら行っています。以前から近いことは行っていますが、書面的なものが出てきているため、会社のルールと併せて行っています。
G委員	現場で講習がうまく浸透しない等、苦労したことはありませんか。
D社（責任者）	パートにも書面を渡して読み合わせを行っているため、問題ないと思います。
H委員	巡回指導担当者と業務担当者が責任者も努力をしても、会社として対応しなけれ

	<p>ばいけない課題があった際、これまでどういった案件があつて会社としてどのように対応されたのか聞かせてください。</p>
D社	<p>現場で対応できないような急な社員の欠員、巡回指導員、業務責任者の不在が発生しても、現在管理担当が学校部門に約12名います。私や支店長含め基本的には学校給食の主任（現場責任者）、または管理担当（巡回担当者）を経験したうえで現在上司として営業マンをしています。急な管理担当（巡回担当者）、主任（現場責任者）、栄養士の不在、調理の指導または相談事についても学校部門の人間がすべて知識を備えているため、現場の主任（現場責任者）、管理担当（巡回担当者）のフォローについては、会社全体でバックアップできる体制を取っています。</p> <p>D社ヒアリング終了 D社採点</p> <p>イ 第二次選考及び選考結果の最終決定 （事務局による集計結果の発表）</p>
委員長	<p>講評をお願いします。</p>
I委員	<p>D社はプレゼンテーション内容から港区の給食に対する理解と協力への積極性を感じました。B社はアレルギー事故の原因分析や作業工程表の記載もれ等、心配な点が若干あります。</p>
C委員	<p>B社について、作業工程表に担当者名の記載がなかったことは、アレルギー対応や担当者の力量、組織としての在り方にも及ぶ問題であると考え、作業の組立てに対する評価だけでなく、アレルギー対応、巡回担当者、業務責任者、組織管理にも低い評価を付けています。</p> <p>他方D社は全体的にやや優れている程度の評価かと思います。</p>
F委員	<p>B社の評価については、C委員に同意します。D社は、作業の組立てが出来ていた点で、B社より優れていたと思います。</p>
D委員	<p>D社の方がB社より全体的によかったと評価しています。</p>
E委員	<p>作業の組立てと巡回担当者で差がつかしました。</p> <p>B社の巡回担当者は現場とのコミュニケーションの話に終始しました。対するD社は技術・衛生面での指導や、現場の課題に対して社の献立データベースを参照する等、十分に対応できる体制があることをアピールできていた点で優れていたと思います。</p>
G委員	<p>アレルギー対応とプレゼンテーション内容で、D社がB社を上回りました。</p>
H委員	<p>B社の巡回担当者が作業する旨の話をしていたことが引っ掛かります。巡回担当</p>

	者の役割は現場の応援ではないと考えるため、巡回担当者について低評価としました。総じてD社の方が良かったです。
B委員	D社は、巡回担当者が高い頻度で繰り返し現場に入り、調理技術の指導に努めている点が良いです。B社はアレルギー対応に不安があります。
委員長	以上の発言を踏まえ、点数に修正はありますか。 (委員長による再集計結果の発表)
委員長	総合点の1位はD社となりました。みなさんの意見や高得点の項目などを改めて整理すると、D社は調理技術上の様々な課題に対応可能な社として蓄積した知識がある点、巡回担当者が高い頻度で現場に技術・衛生面の指導を実施している点が高く評価できます。以上のことから、三田中学校はD社を事業候補者として選定することとしますが、よろしいですか。  (委員一同、異議なし)  (1) 白金の丘学園 ア 第二次選考プレゼンテーション・ヒアリング審査  D社プレゼンテーション D社ヒアリング
事務局	それでは、共通質問事項についてヒアリングを行います。 共通質問1点目、令和3年度のパート定着率は何%ですか。
D社	78.1%です。
事務局	共通質問2点目、配置予定の巡回担当者、業務責任者の経歴を回答ください。
D社	巡回担当者は学校給食の経験が20年、業務責任者の経験が7年、巡回担当経験が5年です。業務責任者は学校給食の経験が18年、業務責任者が7年です。
事務局	引き続きヒアリングを行います。質問をお願いします。
J委員	本校は小中一貫教育校でコミュニティスクールの観点から質問します。1点目、私の学校経営方針で「地域とともにある学園」とあります。ここに「地域との交流とか、開かれた学校給食」と書いてありますが、具体的にどんなことをこれまで実践しましたか。2点目、小中一貫教育校で小学生と中学生の給食の提供に配慮をしていますか。
D社(責任者)	1点目の地域との交流等は、現在従事している現場で地域とのコラボ給食等があった際に、栄養士の指導と協力のもと試作等を行い協力して、地域の商店街のお店の味を忠実に再現して提供しました。2点目の中学校と小学校の差は提供する

	量の違いと、児童と生徒の声掛け、挨拶を行い交流しています。あとは、どうもろこしやそら豆の皮むき等で、従業員がクラスに行って協力してその場で交流することをしています。
J 委員	質問の2点目は交流だけではなく小学校と中学校の給食の配慮についてですが、量の配慮はしていますね。
D 社（責任者）	はい。
B 委員	作業工程表について、アレルギーの乳製品の除去で記入がありますが、注意しているポイントを教えてください。
D 社（責任者）	乳製品の除去について今回の献立に関しては、ボロネーゼのソースの中にバター、生クリーム、粉チーズを入れる献立のため、バター、生クリーム、粉チーズが最後の仕上げに入れる作業工程となり、作業工程に入れる直前に確実に取り出すところがポイントになります。そして回転釜でなく、除去対応を専門に調理する区域のコンロに確実に持っていくことがポイントとなります。担当はソースの生クリーム等の除去に関しては調理を行う担当Bが確実に取ったものを、除去対応のコンロの専用区域に持って行きます。今度はHが除去対応の担当者となるので、Hがもう一度仕上げの調理を行って盛付まで行います。
B 委員	ソースのところにHは入っていませんが、実際は盛付で行いますか。
D 社（責任者）	除去食盛付で記載しています。
B 委員	牛乳のところですか。
D 社（責任者）	はい。
J 委員	4の異物混入について、令和元年度から令和3年度にかけて件数が半減していますが、工夫していることはありますか。
D 社（巡回）	月1回の社員会議と私の巡回時、並びにスマートフォンからクラウド上の社内マニュアルをどこでも確認できるシステムを導入しています。髪の毛や虫等の注意ポイントや防止策を同じ意味合いで共有し、従事者、パートに伝えます。HACCPの考え方も含まれているため、各従事者が以前に比べて危険なものに対する意識力が上がったことを個人的に実感します。繰り返し同じことを社員教育として行います。事業所で問題があった場合は緊急の対応として、メールで瞬時に水平展開を行い、同じことを繰り返さず原因の究明を復習しています。
E 委員	業務責任者に質問です。学校の規模が大きいため調理作業する人数が多くいますが、多種多様な方がいる中で上手に束ねて良い現場作りをする工夫をどのようにしていますか。

D社（責任者）	必ず一人一人に声掛けをするようにしています。人数が多いと一人一人と長く話をするのは難しいので、挨拶だけは必ず行い、作業中に一緒になった者とは意識的にコミュニケーションを取ります。また、人数が多い現場は、1人で全てを見ることは難しいため、各ポイントに担当者を任せて各区域で仕上げ、責任者が各ポイントでの作業進行状況等を確認して進めます。
H委員	この仕事を受託するうえで大事だと思うことは何ですか。
D社	安全で美味しい給食を遅れなく届けることが一番大切だと思います。日々研修会等で技術を向上し、子供にとって一生記憶に残るような物を作り届けることが私達の使命と存じます。
	D社ヒアリング終了 D社採点
	イ 第二次選考及び選考結果の最終決定 (事務局による集計結果の発表)
委員長	講評をお願いします。
J委員	質問に対し回答に若干ずれがありましたが、安心してお任せできそうです。令和3年度のアレルギー事故件数が0件で安心です。
C委員	アレルギー対応、配置予定者の対応、作業工程表のいずれも高水準でした。作業工程表も良く書けていたと思います。
F委員	異物混入対策が仕組みづくりまでいかず、注意喚起に留まったため少し評価を落としましたが、全体的によかったと思います。
D委員	作業の組立てとプレゼンテーション内容が良かったです。全体的に高評価です。
E委員	業務責任者が、作業工程表の注意点について淀みなく回答でき、内容も適切だったので、非常に安心感があります。
G委員	全体的によかったです。巡回担当者が高頻度で現場を巡回し、指導の成果で異物混入を減らした点が良かったと思います。プレゼンテーション内容にもう少しアピールがほしかったです。
H委員	問題ないと思います。全体的に高評価ですが、パート定着率が低めなので組織管理の評価を少し下げました。
B委員	パート定着率の低さと作業工程表の牛乳除去タイミングが分かりにくい点で少し評価を下げましたが、コラボ給食に言及する等港区の給食事業に理解があり、積

委員長	<p>極的に協力する姿勢が見られたので、事業候補者として問題ないと思います。</p> <p>質問意見等、点数の変更はありますか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p>
委員長	<p>応募1社のためD社が1位です。みなさんの意見や高得点の項目などを改めて整理すると、D社は業務責任者の受け答えが良く信頼がおける点、衛生管理や異物混入対策について、高頻度の巡回で繰り返し教育が施されており、異物混入件数を減らした実績がある点が高く評価できます。以上のことから、白金の丘学園はD社を事業候補者として選定することとしますが、よろしいですか。</p> <p>(委員一同、異議なし)</p>
事務局 委員長	<p>(事務局より事務連絡)</p> <p>(閉会の挨拶)</p>